

和みの学び舎

奥沢中だより 壱

教育目標

学びの人 思いの人 育みの人



令和8年1月14日

No.10

世田谷区立奥沢中学校
校長 高林 敏彦

自分を高め、自分と向き合う

※二次元コードからHPをご覧ください

校長 高林 敏彦

あけましておめでとうございます。今年は午年。午年は「大きく成長し飛躍をする年」と言われます。そんな新年のスタートにあたって、皆さんはどのような目標を立て、歩み始めたでしょうか。2学期の終業式で、先を見通して計画する力を身に付けるために、長期的な大目標を立て、その下に中期的な中目標、短期的な小目標を立ててみる方法を紹介しました。自分なりに意識し、一步をスタートしてくれたらうれしいです。

さて、今までに何度か本を紹介していますが、今年もなるべく多くの本を紹介していきたいと思います。今日紹介するのは「非認知能力の強化書」という本です。この本の帯には「心を伸ばせ！」自分を高める力、自分と向き合う力、他者とつながる力・・・など、AIにはないといわれる“非認知能力”育成の第一人者が、10代とZ世代に贈る、自ら“非認知能力”を鍛えるための書。とあります。

この本の中でも紹介されている、今の時代を表す言葉として「VUCA（ブーカ）時代」という言葉があります。これは、アメリカ発祥の言葉で、^{ヴォラティリティ}Volatility（変動性：すぐ変わる）、^{アンサータンティ}Uncertainty（不確実性：先が読めない）、^{コンプレキシティ}Complexity（複雑性：複雑で単純化できない）、^{アンビグイティ}Ambiguity（曖昧性：明確な答えがない）という4つの単語の頭文字をとって、いまの時代の特徴を表した言葉です。このような時代を生きていく皆さんにとって、先ほど紹介した「自分を高める力」「自分と向き合う力」「他者とつながる力」といった非認知能力はとても大切な力ということになります。

この本では、非認知能力って何？という章から始まり、いま、非認知能力が求められる理由、非認知能力の鍛え方等、まさに「強化」する方法について書かれています。

この本で、認知能力は「同じものさしを使った点数や数値で測定・評価できる力」と書かれています。つまり、非認知能力は「同じものさしを使った点数や数値で測定・評価できない力」となります。そして、この「非認知能力」を身に付けることが、大人になってもそのキャリアの中で生かされていくということです。

心理学者のジョン・D・クランボルツ博士は「計画的偶発性理論」の中で、次のように述

1月～2月のおもな予定

| | | |
|-----|---|-------------------------------|
| 1/8 | 木 | 始業式 |
| 15 | 木 | 学び舎あいさつデー |
| 17 | 土 | 防災訓練 |
| 19 | 月 | 振替休業日 |
| 20 | 火 | 避難訓練・専門委員会 45× |
| 22 | 木 | 生徒協議会 45× |
| 23 | 金 | カジュアルデー 英検 |
| 26 | 月 | 生徒会朝礼 ⑤⑥カット |
| 30 | 金 | 校外学習（2年） 職業講話（1年） |
| 2/2 | 月 | 全校朝礼 英語スピーキングテスト （1・2年） |
| 4 | 水 | 保健講話（2年） |
| 5 | 木 | 専門委員会 45× |
| 6 | 金 | 生徒協議会 45× |
| | | 漢検 |
| 9 | 月 | 生徒会朝礼 |
| 10 | 火 | 安全指導 |
| 12 | 木 | 学び舎あいさつデー ⑥カット |
| 13 | 金 | 新入生保護者会 |

べています。

「人の人生の8割以上が偶然でできている。ただし、それだけたくさんの偶然の中にありながら、社会で自己実現できているような人たちには、その偶然がまるで計画されたかのように起きている」

というのです。そして、偶然がまるで計画されたかのように起きている人の共通点として、次の5つの非認知能力を挙げています。

①新しいことを知ろうとする「好奇心」、②ピンチさえも楽しむことのできる「楽観性」、③まずは行動してみようとする「冒険心」、④状況に応じてしなやかに対応できる「柔軟性」、⑤あきらめずに続けられる「持続性」。これらの非認知能力を発揮できるようになれば、偶然を味方に付けられるかも知れないということです。

年のはじめにあたり、こうした「自分を高める力」「自分と向き合う力」を心掛けて毎日
を過ごしていきたいですね。
(1/8 始業式講話より)

生徒会主催 全校縦割り 百人一首大会

去る12月19日(金) 生徒会主催による「全校縦割り 百人一首大会」が行われました。この企画は「世田谷区立中学校生徒会サミット」に参加した前期生徒会役員が企画・検討した生徒会行事です。代替わりし、後期の生徒会役員に引き継がれ、実現に至りました。

畳が敷かれた体育館は立派な百人一首大会の会場となり、壮観な景色です。各学年のA組が一人ずつ計3人で縦割りのチームA、各学年のB組が一人ずつ計3人でチームBを構成し、31の縦割りチームでA組対B組による対戦を行いました。



1回戦は生徒会役員が読み手となり、20枚ずつ読み上げました。現代語とは異なるため、なれない言葉遣いですが、しっかり読み上げてくれる姿に頼もしさを感じました。2回戦は14



名の先生方が読み手となりました。日頃の授業などの様子とは一味違う先生方の様子に会場も和やかな雰囲気となりました。

対戦は第1学年B組、第2学年B組、第3学年B組が勝利し、総合優勝はB組となりました。

縦割りのチーム構成ということで異学年の交流が実現しました。参加した皆さんの感想はいかがでしたでしょうか。見ている側からすると、和気あいあいとした雰囲気はなんとも微笑ましい情景で、温かい気持ちになり、奥沢中の良さをまた一つ実感できる好企画です。前後期生徒会役員の皆さんの企画・運営する力は素晴らしい。会場設営には生徒協議会のメンバーも尽力してくれました。生徒の皆さんの協力する気持ちや楽しむ力も



場を大いに盛り上げてくれました。皆さんに感謝です。

新春奥沢地区まつり

13日(火)に事前指導を行い、実行委員会を代表して 塩谷 良一様よりお話をいただきました。当日18日(日)は、86名の生徒がボランティアに参加します。奥沢中生が地域でも活躍してくれることと期待しています。